

## 第三世界の動向

第二次世界大戦後の冷戦期のなかで、アジア・アフリカ諸国は相次いで独立していった。

第一世界・・・西側(冷戦期の資本主義陣営)の先進国

第二世界・・・東側(冷戦期の社会主義陣営)の先進国

第三世界(第三勢力)・・・第一世界にも第二世界にも属さない国々。

### ◎コロンボ会議

1954年、インド、パキスタン、インドネシア、スリランカ、ミャンマーの5ヶ国首脳がインドのネルー首相の呼びかけでコロンボ(スリランカにある都市)に集まり、インドネシア戦争の早期解決と核兵器の使用禁止、アジア-アフリカ会議の開催などの提案をした。

#### ※ネルー首相の政策

その年の6月に中国の周恩来首相を迎えて、両国の友好の基礎として、またアジア・アフリカその他の諸国間に向けて「平和五原則(領土主張の尊重、相互不侵略、内政不干涉、平等互惠、平和共存)」を発表した

### ◎アジア-アフリカ会議(バンドン会議)

1955年、インドネシアのバンドンにアジア、アフリカ29ヶ国の代表が集まり、反植民地主義と民族自決主義などをうたった平和十原則を採択した。

## 中東戦争

ユダヤ人がイスラエルを建国したために、アラブ人が石油の権利などを巡って対立(パレスチナ問題)。  
過去40年以上にわたるイスラエルとアラブ諸国間における4度の武力衝突をいう。(ユダヤ人VSアラブ人)

### ◎パレスチナ戦争(第一次中東戦争)(1948年～1949年)

国連によって「パレスチナ分割案」が作成され、パレスチナ地区の56%をユダヤ人に、44%をアラブ人に割り当てられたために、アラブ諸国が反発し勃発した戦争。

### ◎スエズ戦争(第二次中東戦争)(1956年～1957年)

アスワン・ハイダムの建設を巡って、エジプトと米・英が対立し、エジプトのナセル大統領がスエズ運河国有化を宣言。  
これに対し、英・仏・イスラエルがエジプトに軍事行動を起こした。3国は国連の即時停戦決議と米ソの批判に前によって撤退を余儀なくされ、エジプトの勝利で終わった。

### ◎六日戦争(第三次中東戦争)(1967年)

シリア革命により左派政権が生まれたり、「アラブ民族主義」が高揚してきたことにより刺激されたイスラエルが奇襲攻撃をおこない6日間でシナイ半島を占領し、圧勝したものである。

### ◎第四次中東戦争(1973年)

イスラエルに対して、エジプト(サダト大統領)とシリアが奇襲し、緒戦を飾ったが、米国の援助を受けたイスラエルが反撃し、激戦が続いた。OAPECがイスラエルを支援する国々に対して石油の禁輸・量的制限と、OPECによる一方的な原油価格の引き上げが行われ(石油危機)、その政治的駆け引きにより、アラブ側が勝利した。石油危機により、西側先進諸国は景気の悪化に直面した。

理解point

|       |             |
|-------|-------------|
| ユダヤ人  | アラブ人        |
| イスラエル | エジプト<br>シリア |